

## 建設キャリアアップシステムニュース 第69号

東京土建一般労働組合 CCUS推進室

施工能力の「見える化」(施工能力)とは何か(2)

## 全国24万人が登録、レベル判定システム稼働！

## 4月末全国24万人の登録

## ◆4月末の全国のCCUS累計登録件数

技能者24万1260件、事業者4万6789件。  
東京では各々26,013件と6549件でした。

CCUS運用開始の2019年4月以降、増加が継続しています。CCUSと連携した技能者の「レベル判定システム」も稼働し、技能者の経験・技能を対外的に証明できる手段であり、さらに登録の増加が見込まれます。

## ◆東京土建の登録状況

(5月22日現在、本部・技術センターを含む)

技能者助成金給付人数	1036人
認定登録機関技能者登録数	1080人
事業者登録数	407件
認定登録機関設置数	23件
うち公開窓口	18件

## ◆コロナ対策、窓口業務を一部解除

コロナ対策「緊急事態宣言」一部解除にとも



ない、業務停止されていた認定登録機関の一覧が5月15日に公開されました。対外的には東京は認定登録機関・窓口業務停止となっていますが、CCU

Sシステムは稼働しています。

## レベル判定1カ月で2739人申請

CCUSに連動して評価を自動で行う技能者「レベル判定システム」が4月から稼働し(第62号既報)、1カ月で2739人が申請。判定が完了し、カード更新者はゴールド148人、シルバー816人、ブルー1184人の計2148人。

レベル判定申請とカード更新の手数料が無料措置となる「建設技能マネジメントスキル向上特別講習」受講者(昨年11月～20年2月開催)も含まれています。この受講者は引き続き

き、手数料無料で判定申請ができますが、建設業振興基金HPトップ画面の最下にある「特別講習を受講したみなさまへ」の「登録フォーム」より7月までに登録等が必須です。[技術]

## 「見える化」、「評価項目」のうち「施工能力」の評価とは？

## ◆施工能力「見える化」の目的

CCUSを活用した工事企業の「見える化」は、「建設技能者を雇用し、その育成を行っているのは、主に専門工事企業である。人を大切にし、施工能力等の高い専門工事企業が適正に評価され、選ばれる環境が整備されることにより、受注機会の確保や建設技能者の処遇改善や人材への投資が促進され、業界に対する安心感(不良不適格業者の排除)が高まる。その仕組みを構築することが、見える化評価制度の目指すものである。」(国交省の工事会社の「見える化」ガイドライン)とされ、このことは組合としても共有できるものです。

## ◆「見える化」=企業評価の内容

「見える化」評価は、「共通評価内容」と「選択評価内容」から構成され、「ガイドライン」が「見える化評価の項目及び共通評価内容」と「選択評価内容の例」を参考に職種ごとに各職種の評価機関で具体化されていきます。

## ◆評価項目は3つ 2つ目は「施工能力」

「評価項目」は3区分され、1つ目は前号で記載した「基礎情報」。2つ目の「施工能力」を紹介し(3つ目は「コンプライアンス」)。

## ◆「施工能力」の「評価内容」

「ガイドライン」はCCUSカードを所持する事業所従業員である「建設技能者の人数」などと「施工実績」で評価する考え方を示しています。

## (1)建設技能者の人数

## ①CCUS保有者数(4段階評価)

CCUS登録が「30名以上」100点、「30名

未満」「15名未満」「5名未満」の4段階。5人未満の個人事業者でも25点を配点されます。

### ②レベル3以上の技能者の割合(4段階評価)

CCUS情報の活用により、レベル3以上が「40%未満～20%以上」100点で、「20%未満」「15%未満」「10%未満」の4段階。レベル3・4の技能者がいなくとも25点を配点。技能養成をしている事業者を評価できるようにレベル1・2の技能者が過半数を占めないと100点とならない配点に設定されています。

### ③29歳以下と勤続年数の割合(4段階評価)

事業所の技能者の「29歳以下の者の割合」と「平均勤続年数」の2つを組み合わせ100～25点の4段階配点。29歳以下の若手が多く、平均勤続年数が長いと配点が高くなるように設定されています。真正性の確保(裏付け要件)は、各評価団体が決めることとなります。

### (2)施工実績

請負金額、協力会社、表彰実績等について、各職種ごとに評価方法を設定し、各評価団体が決める別途申請を確認することによって、評価することとなります。

### (3)評価の計算

「技能者の人数」のみで計算すると、次の「従業員1人の個人事業所」の例では「星3つ」となります。若い人が離職しないで経験を積んでいけば「星3つ」を維持できます(「施工能力」の「施工実績」は各職種団体が決めるので無視)。(例)技能レベル3が1人(事業主、60歳・勤続2

0年)とレベル1が1人(20歳・勤続2年)の技能者2人の事業者の場合、

- ・CCUSカード所持2人……25点
- ・レベル3以上50%……50点
- ・若年者の割合と勤続年数

29歳以下50%=100点  
平均勤続11年= 50点 → 75点

- ・施工実績(各団体で作成)… —  
(25+50+75)/3=50 → ☆☆☆

### (4)大工(案)はリコ、競技大会、資格取得も評価

全建総連が示す【工務店評価(タイプG及びタイプS)】案の「選択項目」は、「施工能力」のうちの「施工実績」の「評価内容」にて、工事1件100万円以上を4件以上施工していることやリコ加入などを高評価にしています。

また、【工務店評価(タイプS=一人親方)】では、「施工能力」の項目に「技術・技能の向上」(公的な表彰や技能競技大会の出場経験者がいると評価が高い)と、「技能者の資格取得」(登録建築大工基幹技能者、技能士〔建築大工〕、建築士、建築施工管理技士、職訓指導員、職長、増改相談員、作業主任者、特別教育等の資格取得者が多いほど評価が高い)が設定され、小事業者の施工実績が評価される案となっています。各職種とも小事業者が正しく評価されるしくみが必要となります。[職域]



### 見える化評価の項目及び共通評価内容(施工能力)

項目区分	評価内容	評価方法	詳細内容	確認方法
施工能力	建設技能者の人数	4段階評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建設キャリアアップカードの保有者数</li> <li>●所属技能者に占めるレベル3以上の者の割合</li> <li>●所属技能者に占める29歳以下の者の割合及び所属技能者の平均勤続年数の合算</li> </ul>	CCUS ※最大請負金額、協力会社、表彰実績は、別途申請が必要の可能性
		必須記載項目	●建設キャリアアップカードのレベルごとの人数、最大請負金額、協力会社、表彰実績	
	施工実績	必須記載項目	—	別途申請

施工能力

評価内容の平均点	配点	建設キャリアアップカードの保有者数	所属技能者に占めるレベル3以上の者の割合	所属技能者に占める29歳以下の者の割合及び所属技能者の平均勤続年数の合算	所属技能者に占める29歳以下の者の割合	所属技能者の平均勤続年数
☆ 25点	25	5名未満	10%未満	合算した点数が50点	10%未満→25点	10年未満→25点
☆☆ 25点超50点未満	50	5名以上15名未満	10%以上15%未満 40%以上	合算した点数が75点	10%以上20%未満→50点	10年以上15年未満→50点
☆☆☆ 50点以上75点未満	75	15名以上30名未満	15%以上20%未満	合算した点数が100点又は125点	20%以上30%未満→75点	15年以上20年未満→75点
☆☆☆☆ 75点以上	100	30名以上	20%以上40%未満	合算した点数が150点、175点又は200点	30%以上→100点	20年以上→100点
真正性の確保		CCUS	CCUS	検討中	検討中	検討中